本草圖譜

果類 自六十五至六十六

太政官文庫
和書門
類 號 八三四四
函
架
冊 二八

内閣文庫
和書
類 號 八三四四
冊 二八
架 二三
一九六函

内閣文庫
番號 和 8344
冊數 28 （24）
函號 196 191

国立公文書館
National Archives of Japan

本草圖譜巻之六十五目録

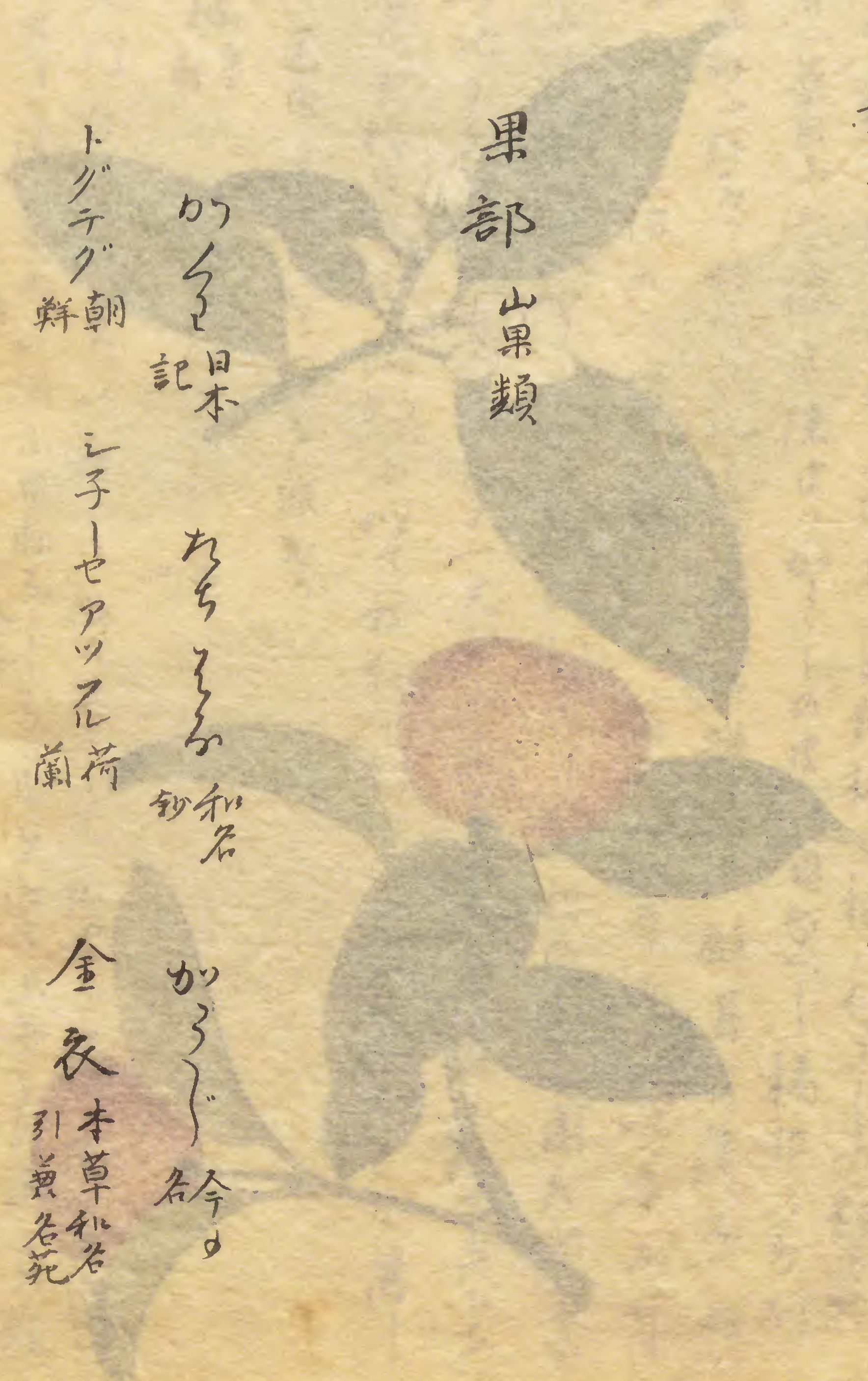
果部 山果類

橘		かうじ	一丁
朱橘	同上	あかかうじ	二丁
緑橘	同	あをみかん	四丁
一種	福州	たちばな	五丁
穿心橘	同		六丁
茘枝橘		うきみかん	七丁
黄橘	解集	きちかうじ	一丁ウ
一種		とうみかん	二丁ウ
包橘	同	かうじ	四丁ウ
早黄橘	同	わせかうじ	五丁ウ
凍橘	同	おくてのかうじ	六丁ウ
一種		ろうこみかん	七丁ウ

柑	こかん	八丁
乳柑 鮮集		八丁ウ
海紅柑 同 上	きやうらうかん	九丁
洞庭柑 同		九丁ウ
一種 紅伊國	こかん	十丁
朱柑 同	びみこかん	十丁ウ
獅頭柑 同 雲州	ねちごみ	十一丁
饅頭柑 同		十一丁ウ
一種 菊	こかん	十二丁
橙	くねんぶ	十二丁ウ
一種	ろんごいうし	十三丁
一種	たいし	十三丁ウ
一種	かぶち	十四丁
柚	㊥	十四丁
一種	ともの㊥	十五丁ウ
一種	きん㊥	十五丁
一種	ゆかう	十六丁ウ
朱欒 名釈	ざぼん	十七丁ウ
一種	ぼんぼうたん	十九丁
香欒 鮮集	とうくねんぼ	二十丁
枸櫞	まるぶしかん	二十丁
佛手柑 名釈	ぶしかん	二十二丁
金橘	きめうちきみ	二十丁ウ
金豆 鮮集	まめきんかん	二十二丁
一種	ながこきんかん	二十丁ウ

本草圖譜巻之六十五

果部 山果類



橘

かくのみ 日本紀

たちばな 和名鈔

かうじ 今名

トグテグ 朝鮮

ニ子ーセアツフル 荷蘭

金衣 本草和名引兼名苑

黄(かうじ)上 同

玉局 花暦百詠

青露 名物方言

今云かうかうじハ別物にして古云かうかうじにあらず今西國にてかうかうじと

云物ハ柑より微しく小也然ハ八閩通志の猴橘之橘ハかうじの類にて惣名之藥用にのる橘皮陳皮ハかうじの皮を用ゆへし橘柑の分別集解に詳なり時珍の説に橘ハ実小其瓣味微酸其皮薄而紅味辛而苦柑ハ大于橘其瓣味甘其皮稍厚而黄味辛而甘と云ふ従つて橘ハかうじなる事を疑ひなし橘柑の類四國九州等暖地に多く栽ゆ橘の樹高さ一丈余に至る葉ハ冬青に似て尖りあり花五瓣白色空疏うに似て枝幹に刺あり実柑よりちいさく皮薄し

今薬用に柑皮を用るハ非なり

黄橘 集解 きつかうじ 遠州

遠州白輪より出る形柑より微大にして肉皮に満つ肉の味ひ甘く皮甚だ薄く皮肉の間に白脉なしこの皮を以て上品とす近ころ總の東金より出るもの形味ひ同じ

ちうわかうじ

朱橘 集解 あかかうじ
べにかうじ 深血 江南圃史

実の大さ柑の如くにして皮の色赤く美なり

一種
とうこうかん

筑前筑後に産れえ漢種なるよし柑より大にして皮の肌く細密にして橙絹の如し皮赤く肉の味ひ甘く核少なし

緑橘 集解
あをこかん

朝鮮より来る柑の類にてハ青色のまゝ食ふへし

包橘 集解

かうじ

尋常のかうじハ柑より小にして皮厚く実小に肌平かにして黄色光りありて下品なり味ひ苦し

一種

福州たちばな

実ハかうじに似て皮薄く肌細く味ひ酸し

早黄橘 集解

わせかうし 早紅橘 汴南国史

近年下総の東金ニて橘柑植ること多く栽ゆ秋より早當のかうしを出す物なりと云其常のかうしに似て緑色稍大き味ひ苦く酸し

穿心橘 集解

皮を去れは中心ニ一指を入るゝほとの空洞あるもの相なきこれあり

国立公文書館
National Archives of Japan

凍橘 解集

おくてのかうし

冬月ニ至て尚実木ニ附て落ざる物なり

茘枝橘 解集

くさみかん

大さかうしの如く圓く皮厚く硬く黄白色の疣瘤の形ありて茘枝の皮ニ似たり

一種 ろうかん

盧橘 潜確居類書

葉ハ柚の如く肉皮かんに似て早く出る

柑 かん

甘子 酉陽雑俎

瑞金奴 群芳譜

穰候 事物異名

柑も橘と同しく暖国の産にして寒国にハ養ひかたし花葉共に橘に似たり実の皮厚くして気孔粗く肉の味ひ甘し其種類多し右に出す処ハ柑の総名なり

国立公文書館 National Archives of Japan

乳柑

田村氏の説に昔年朝鮮人柑子を持来る者あり呼てかんきとよぶ形ちくねんぶに似て少く皮の色もくねんぶより鮮なるかんに似て少し大なりて氣甚香しく味ひ至て甘し其皮の厚さくねんぶより少し厚し疑らくは乳柑なるといへり

海紅柑　集解

ぢやかたらかん

実大さハくねんぶの如く皮厚く赤色膚ハ細かにて肉の味ひ甘し

洞庭柑 集解

あふぢん

ミかんなる

昔芥羅侍従柳川侯朝鮮より此種を持帰り栽られしより今世にありしより實の形大やかなりみかんに似て稍扁く膚細かにして皮薄く肉の味ひ甘く核少なし

一種 紀伊國みかん

形大ならずして皮厚く脈く粗にして柔く肉の味ひ甘美なり

朱柑 集解

へそみかん

皮黄赤色にして酸味多く下品なり

獅頭柑 集解

雲州ろちかう

駿州に多く栽ゆ形大にして柚の如く稍扁く熟して紅黄色緑色の疣瘰あるを蝦蟇の背の如し味ひ甘し以上三種ハ葉の形大にして橙葉の如く本ゝ小葉なし枝幹刺あり花五瓣白色柑の花より大なり

饅頭柑 集解

形紀伊國みかんより小く皮厚く硬く蔕の着る処別ニ高く起りて木瓜の臭の形し

一種

菊みかん

葉ハくねんぼの葉ニ似て小く実ハ柑より小く黄色ニ[illegible]く堅小緑色の紋ありて菊の形し

橙 くわんが

柚 群芳譜

蜜橙 秘傳花鏡

樹高大にして葉ハ柚の如し大ニ本ニ小葉とる　し枝間に刺あり花ハ柚に似て大く実ハ雲州みかんに似て肌密にして厚く肉液少く味ひ甘く香気あり

一種 わんだいし 長州

長州にあり形常のたい〱のごとく かた蔕二重あり饅頭柑の如く若 味少く食ひかたし又たい〱に同し 冬春ハ黄色春月ハ緑色に変し 年を経るも同し

一種 なつかぶち 長州

回青橙 八閩通志

樹葉ハ橙ニ似て分別なし、かぶちに同し但其
実青く冬月霜を経て漸く紅黄色味ひ酸く
苦く然も近頃疝積を治すに用ゆ冬月を経
たる実春に至り緑色に変し冬又紅色になる
年を経る也なつかぶちと云

一種

かぶち

樹葉ハくねんぼニ似て刺多く実稍小ニして柚の如く黄色味ひ苦く臭氣ありて食ひがたし但乾して蚊をいぶるにハよき藥長州ニハ苦味少く酸味多く食ふべき物ありといへり

柚 ゆ 和名鈔

大橘 大倉州志

ゆず 筑前 雲州

かくしくり 國中

樹高大ニして枝間ニ刺多く葉両段をなし夏月五瓣の白花を開く実ハ柑より大ニ橙より小ニして黄色肌粗く味ひ酸し

一種　よしゐ〇　ちらか〇
羅柚 廣東新語
実の形小にして硬く冬に至りて実猶樹にありて味ひ劣れり

一種
きん〇

実の形相似て皮細にして平なると柑の如く純黄色酸味少なかし

一種　ゆかう

形状柚に似て
酸味少なく甘
味ありて果と
なすべし

朱欒　釈名　ざぼん　ざんぼ 筑前　じやぼ 土佐　じやがたらみかん 京

此物柚と異なり葉長さ七八寸花五瓣白色柚の如く実甚
大にして匏ばかりの如く外皮も又柚の如く黄色皮厚さ一寸許り肉
淡黄色にして苦く生にて食しがたし砂糖に和して食用
す

国立公文書館
National Archives of Japan

一種

きんかんめくまて

形状前條と
同くして長さ
尺に及ふ

香欒 集解

とうねんぼ 日向

さんぼう 伊豫

うちむらさき 肥前

四國九州の暖地にあり形状前に似て唯中の肉の瓤淡紅色香氣あり味い稍甘く食ふべし

枸櫞
まるぶしゅかん

暖地にありてハ実を結ぶ葉ハ柚に似て厚く大く葉の本に小葉なし花五瓣柚の花に似て大にして淡紅色を帯ぶ其実圓にして両頭尖り長さ二三寸皮淡黄にして厚く稍疣瘰あり肉白色味ひ不可なるゆへ砂糖或ハ蜜煎し食用し又薬用とす

佛手柑 和名 ぶしゅかん

飛穰 通雅

佛爪香圓 八閩通志

樹葉前條と同し唯此物嫩葉紫色を帯るを以て別とす唯其実蒂ハ枸櫞の如く中央より末分れて十瓣許り屈曲して人の手に似たり肉白色にして核なし

金橘

ひめたちばな
きんかん

瑞金奴 秘傳花鏡

樹葉柑に似て葉稍小く刺あり
花五瓣白色小く実の大さ枇杷
の如く熟して黄色生ても食し
砂糖に漬て食用ゆ

金豆 集解

まめきんかん

樹葉前條と同しく唯
実大豆の大さ秋月熟
して黄色未熟にて
紅黄色尚樹に着て而
も固く食ふに堪ず

一種　ながきんかん　金棗花　唐

牛嬭金柑　海南圖史

樹葉前條に同しく実長ふして棗の如し

本草圖譜巻之六十六目録

果部　山果類

枇杷	びわ	一丁
一種	薩州ノ産	二丁ウ
楊梅	やまもゝ	四丁
一種	しろやまもゝ	四丁ウ
櫻桃	ゆすらむめ	六丁
山嬰桃	あかきさくら	七丁
一種	やまゆすら	八丁
銀杏	いちやう	九丁
胡桃	くるみ	十丁
山胡桃 集解	くるみ	十一丁ウ
一種	ひめくるみ	十二丁
一種	樺六くるみ	十三丁ウ

一種	てうじくるみ	十三丁ウ
一種	つのはしばみ	十四丁
苦櫧	つぶがし	十三丁
鉤栗	あらかし	十五丁ウ
橡實	つるばみ どんぐり	十六丁ウ
抱 集解	こなら	二十丁
一種		二十二丁
一種	みづなら	
榛	はしばみ	十三丁
樕子	かしのみ	十五丁
一種	ならあか	十六丁ウ
一種	いちゐかし	十六丁
槲實	ならのみ	二十丁
一種		二十二丁ウ
一種		二十二丁ウ
一種	たくそ	二十四丁ウ
大葉櫟 釈名	かしは	二十三丁ウ

果部 山果類

枇杷

びハ 和名鈔　蠟兒 典籍便覧　夏雪 名物方言 花の名

人家多く栽ゆ葉ハ栗の葉に似て厚く背に黄い毛多し冬間より冬日穂を
なして五瓣黄白色の花を開く夏日実熟の黄色にして正圓 梅指の大さ
味い甘し中に核あり黒褐色にして金光あり一核のもの二三核のものありて
核小にして肉多きもの上品也此核を和の方書に巴実と名く本経逢原に其
核大寒にて而伐に肝脾ニ止ニ花暦白詠に定風珠といふもの核を以て法ゆあい
人形のおもり小造る食料には武州嶽より出るもの核小く肉多し

一種

薩州ニ産スル物実大ニして柑の如く味ひ甚甘美上品之時珍の説ニ大者如雞子といふこれなり

楊梅

やまもゝ

楊家果事物異名　楊氏子

龍睛　火実共ニ同上　アルビュテュスボーム　荷蘭

暖地ニ産ス豆州赤澤八幡野又上総房州ニもあり樹高さ一二丈嫩芽の葉ハ鋸歯ありて槲の葉ニ似て小く老樹葉ハ鋸歯なく瑞香葉ニ似て狭く冬凋まず春月葉の間ニ黄白色の小花を生ず別の如ニ実を生ず形覆盆子ニ似て肌細く指頭の大さにして正圓夏月熟し紫紅色味ひ酸く甘し蛇莓ニ反るといふ　楊梅皮ハやまもゝの皮之條ニ出すかたよりて漆家ニて褐色を染むるニ用也

楊梅

一種 しろやまもゝ

水精楊梅 五雑俎

泉州日根郡に河州に実白色なるものありと又豆州にもありと云甚稀之釋名に時珍北戸録を引て白楊梅為聖僧と云是あり

櫻桃 ゆすらむめ ゆすらうめ 京 ゆすらん 和州 かにはさくらのみ 本草和名 朱茱 証類本草 英桃 群芳譜 朱英 秘傳花鏡 覓鳥竜芽 呂祖全書 楔 本草和名引藥性 麦英 上同 麦桃 本草和名引兼名苑

凡唐山より種数多く和産は少し樹高さ四五尺春月葉に先て花を開く五瓣淡紅色形桃花に似て小く蕾三四一處より発く従て葉を生ず桜の葉に似て小く厚く微し毛あり五六月に実熟す都て李に似て実紅色味は酸し中に小き核あり又郁李に似て実大なり

櫻桃
ゆすらむめ

山櫻桃 楝子 急就篇 あかもさくら 江戸 てらじさくら

野州日光山武州上野信州木曽山中及ひ上総房州等の高山の深き所に自生す樹二三丈葉は櫻桃の如く細鋸歯あり樹はかにはさくらの如く花は彼岸小開く五瓣水紅色大さ二三分花の茎長く蒂の形丁香に似たる者多く実熟して紅紫色大さ南燭の如し味ひ酸甘し房州の産は花大にして五分許りありて紅色美し櫻桃は人家に有て深山にある山櫻桃は人家にあり深山に自生するに山櫻桃の名あり此ゆへにむさしの実退に無して彼岸さくら山さくらに色生し山さくらより千瓣の物を生し今多く花を採る者さくらを至る事あり然るに數百種にして遠業皆ここに載す

一種
やまざくら

大和芳野多産なり深山にハ
おほく葉ハ李に似て濶く花ハ二月開
く単瓣水紅色大さ梅花の如
し其実桜桃に似て圓く茎長し
塩蔵して食ふべし酒の酔を解く

銀杏

いちやう 木の名

ぎんあん 実の名即ち銀杏の唐音なり　ちゝのき

仁杏 海南圃史　白眼　霊眼 共上同上

白杏 事物異名以上実名　公孫樹 海南圃史

平仲木 正字通　火　櫜木 通雅以上樹名

人家多くあり樹高く聳ハ数丈に至る葉の形鴨脚の如く
春月寸許りの穂を淡緑色の小花をつけ攢簇す秋月実熟す大
さ杏の如く黄色脂夜多く肉中に核あり白色にして三稜或ハ
二稜あり核中に仁あり白色之を蒔ける時ハ緑色に変し果となるべ
し尤も樹雌雄あり雄なるものの実を結ばず雌なるものの実を
結ぶ老樹には枝の本より乳の如きものを生じ長さ一丈余に
至る土中に至れは根となるべし

胡桃　子ミロ　タクチユス朝鮮　スキスイコグラニヌ羅甸

核果事物異名　蝦蟆瑯琊代酔編仁の名

阿乞朝羅梵語　播囉師米同上

薬用ふハ朝鮮なるを一名唐くるみといふを用ゆべし樹高大葉ハ
山胡桃より似て浅き鋸歯あり又漆の葉に似て鋸歯あり七葉九葉
一葉に対生す枝の梢に夏月花あり栗の花に似て下垂す後実を結
ぶ桃に似て緑色硬く中に核あり山胡桃より核扁く皺少なく微悒
りて殻を去るもの碎き易し仁に鉄刻ありて牡丹花の如し味ひ尋
常のくるみと同し

十

山胡桃 集解 くるミ

人家多く栽うるよし漆の葉に似て潤く大にして微し黄褐色にて毛あり核硬く皺ありて一尖あり砕け難し一種からくるミといふは越後の産なり核自ら開て鳥の口を開く形し故に名付く

一種 ひめくるミ めくるミ 加州

核扁くして皺少なし中の仁採り易し山胡桃の中にて仁全く採れ馬鞍の形の如くなる故に上品となる

胡桃

ひめくるミ

一種　権六ぐるミ

奥州耶麻郡大塩村宍沢権六の園ニ産す故ニ名く権ニまて壓口葉子ふるもし甲州ニも此種あり

一種　てうじぐるミ

羽州野代ニ形圓ニして殻薄く手ニて砕きやと出羽へ来るあり

榛

榛 はしばみ 和名鈔

女贄 同上

蓁 栗 通雅

仕城果 名物法言

庭除多く栽ゆ小木にして叢生す葉は楡に似て闊く大く周
圍に大小の鋸歯あること出の食まるに似たり肌紋理深く嫩葉に
紫斑あり冬月枝の間に花を生ず穂をなして黄色鼠尾の
如く春月実を結て殻あり殻中の実柯樹味の実に似て圓る美
食ハ香美なり

一種 つのはしばみ 奥州松前 おかはしばみ

奥州松前遐甚餘北國にまゝあり葉ハ楡に似て微し毛あり樹丈余に
及ぶ花ハ前條と同し唯実の殻長くして角の如く一房三五顆を結
ぶ其実圓にして尖りあり味ひ前條と同じ

櫧子 かしのみ せうぶめ 州志 かしのき

圓櫧 物理小識

諸国山野並に庭際にも栽ゆ種甚多し材ハ白色にて微し赤みあり苦櫧より柔かり葉ハ茶に似て肥大にて皺なく硬く鋸歯粗し裏淡緑色初夏葉の間に花あり穂をなして栗花の如く長さ二寸許黄白色別の処に実を結ぶ柯の実に似て肥大に初ハ青熟すれハ黄褐色実の本に蔕ありて形碗の如し実の味ひ渋し

苦櫧 解集 つぶがし

此條ハあかしの実をいふ上品なり葉ハあらかしの葉より潤く厚く堅くして鋸歯なし四時凋まず初夏葉の間に花を開く栗花に似て細く短く実ハ蓮実の大さにして本に蔕あり碗の如し横に筋あり食用とす此材赤色にして堅く鉄炮の臺車の歯並に諸器に作る

一種 あらあか あらかしの葉に似たる いちかしとも名く 龍栢芽 救荒

あかしの内にて葉に鋸歯ありて櫟葉に似たる物あり其外に葉長葉其類甚多し

苦櫧
つぶかし

鉤栗　あかがし　　麪櫧
櫧子
集解

あかかしハ材あかくして白色苦櫧より柔し葉柯樹ハニ似て鋸歯深きあり浅あり葉ニ狭き濶きあり葉の背白色又ハ黄色あるもの淡緑色の物あり春月葉を生するに早晩あり嫩葉白色の物紫色の物あり実より変するもく一あくび四月花あり栗の花に似て穂細く短し醒氣あり実ハ苦櫧と同しく其蔕も又同し味ひ苦く濇し

一種　いちいがし

尾州勢州にもあり葉細葉のかしに似て鋸歯深く背並ニ茎ニ黄褐色毛あり実もかしに似て圓し

鉤栗
まてがし

いちいがし

橡實

つるばみ 和名鈔本草和名
どんぐり 江戸
しんだんぐり 同上上州
しだんぐり 信州以上実名
くぬぎがま 江戸
とち同名あり
まてゝ 備中
うつまき 駿州
しきんかし 但州

うばぐり 摂州以上木名
ヱイケボーム 和蘭
橡栗 通雅
橡斗 同上
黄栗 物理小識以上実の名
様 通雅
柖 同上
赤糯木 證類本草以上樹の名

山野に多し高さ二尺許り葉は栗に似て頗る短し硬にして鋸歯あり
樹に雌雄あり雄なるもの夏月葉の間に穂を下垂る栗の花に似て瘠
なり雌は枝の間に実を結ぶ又栗の子に似て細長し木に毬ありこれ
をとめのことふらの樹皮を和方書に土骨皮門皮国皮ともいふ此樹に
炭を池田炭と云又薪にもよろし

槲實　なかのき　なかぎ　以下本名
　　みつそかしは　みつそ　和州　まき

山野に多し栽て炭薪とするなかなかそかしはと等各別にして
大同小異あり葉はかしはに似て微し尖りくぼく枝の先に至り紅黄
色になり落葉は初夏葉の間に花を開く栗の花に似て細く短
し従て実を結ぶ橡実に似たり蔕まで半ばを閉し実味に苦く
渋し根上に栗の毬の如きものを生ず実に虫の巣に
白色の長き虫あり其巣をなくすこと又なくしじのふくろと
いふ

檞實

みつのき

枹 集解

ほうそ　こうかうしゝ

青岡樹 救荒

數落樹 肉蓯蓉集解

孛落葉 鎮江府志

葉本狹く末廣くして尖り粗く鋸歯あり秋月葉紅色になりて落葉は初夏花ありて形前條に同し実も又同し味は苦く渋し

一種
樹前條と同し
葉は前條より微く
大にして実又同し

一種
葉前條より
大なるもの

国立公文書館
National Archives of Japan

一種

葉又前條より大なるもの

一種

葉前條より小なるもの

大葉櫟

釈名

もちかしは

かしは

葉ハくぬぎに似て大く厚く
稍黄褐なる頃落葉せず
して新芽を生ずる時落
る春月の末葉の間に穂をなし
栗の花に似て短く実を結
形櫟に似て小く長 殻の文同し

一種

しらかし

葉前條に似て
薄く鋸歯を
なみの形し

一種 ちくそ

葉ハあらゝり大にして狭く長し秋日紅色とな
り落葉乃後実本條なる
槲実之大く圓くして殻あ
て橡子の如し。

国立公文書館
National Archives of Japan